

平成28年度「防災教育を中心とした 実践的安全教育総合支援事業」

～鳥取県の取組～



鳥取県教育委員会事務局体育保健課

「鳥取県中部地震」について



支援に対する感謝

・全国の皆様から多大なる支援を頂いた

※兵庫県教育委員会の教職員でつくる「震災・学校支援チームEARTH(アース)」の方々による支援

※熊本県教育庁教育指導局
体育保健課学校安全係の
の方々による支援

※徳島県教育委員会による
支援物資の提供



地震により苦慮したこと

☆倉吉市立学校給食センターの被災による学校給食の停止



【給食センターについて】

食数……約4200食

配送校……小13校

中5校

計18校

建築年……平成5年

【被災直後の課題】

- ・児童生徒への温かい食事の提供＝保護者の負担軽減
- ・被災の有無による意識の差

【学校給食実施の課題】

- ・学校給食管理基準に沿った「給食」の提供
- ・給食提供先の確保
- ・給食開始までの見通し
- ・食物アレルギーを有する児童生徒への対応

給食関連の施設・設備の点検→災害に備える

1 鳥取県の概要

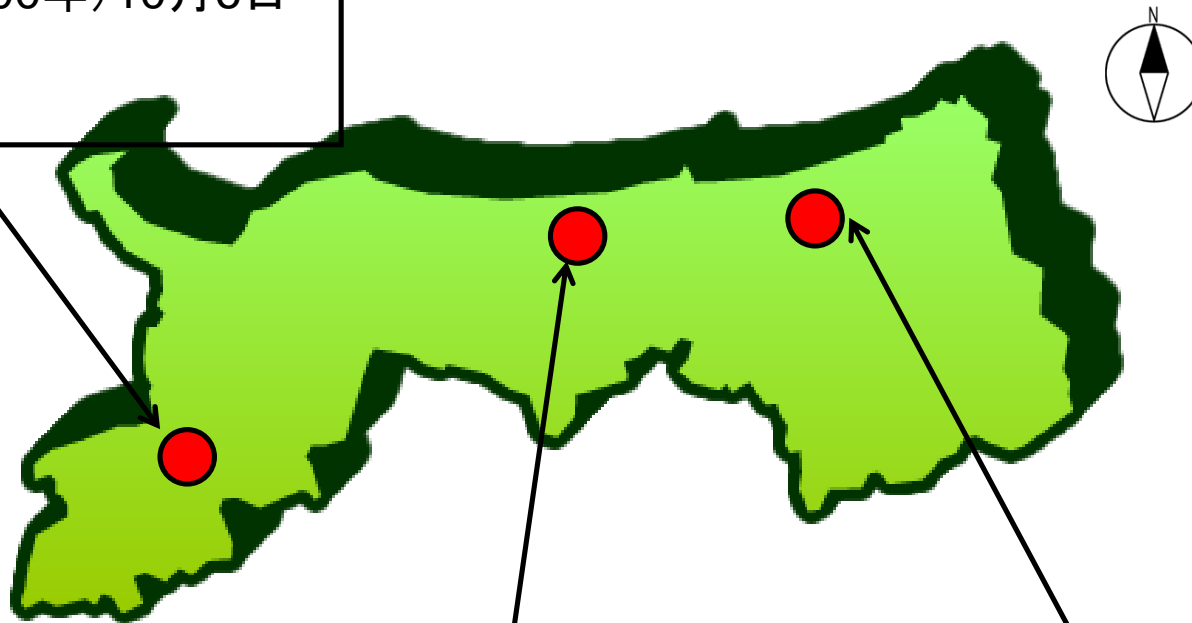


- ・面積・・・全国47都道府県中、7番目に小さい
- ・人口・・・最少(57万人弱)
- ・市の数・・・最少(4市)
- ・県庁所在地・・・県東部の鳥取市
- ・学校数・・・幼(3)認定こども園(11)
小(129)中(57)高(24)特別支援(9)

2 鳥取県で発生した大きな災害(地震)

【鳥取県西部地震】

- ・平成12年(2000年)10月6日
- ・最大震度6強
- ・死者0名



【鳥取県中部地震】

- ・平成28年(2016年)10月21日 14時7分
- ・最大震度6弱(倉吉市、湯梨浜町、北栄町)
- ・死者0名

【鳥取地震】

- ※震源は、旧気高郡
- ・昭和18年(1943年)9月10日
- ・最大震度6
- ・死者1083名

3 鳥取県の取組

防災教育を中心とした実践的安全教育総合支援事業

【県実施】

第1回 学校の安全教育推進委員会

【市町村実施】

<実践地域における取組>

- 鳥取市立佐治小学校
- 鳥取市立末恒小学校
 - ・ 実践的な学習・避難訓練の実施
 - ・ 学校の防災、防犯に係る取組
 - ・ 実践委員会の開催
 - ・ 先進地視察
 - ・ 全国連絡協議会参加

学校防災
アドバイザー派遣
事業

【県実施】

県外視察

【県実施】

第2回 学校の安全教育推進委員会

【県実施】

成果の普及

○ 「鳥取型防災教育の手引き」の活用促進

○ 「学校の防災教育への専門家派遣事業」の活用

- ・ 県治山砂防課、鳥取地方气象台等関係課・機関との連携して、防災教育に係る専門家を学校に派遣（県教委窓口）

4 「学校防災アドバイザー派遣事業」

ねらい・・・児童生徒に対して災害に対しての知識の習得や災害の状況に応じた行動の指導を行う等、実践的な防災教育を推進する。

主な内容・・・「学校防災アドバイザー」を、希望する学校に派遣

- ①「鳥取型防災教育の手引き」を活用した学習(事前打合せも含む)
- ②避難訓練等について管理職等への指導・助言
- ③専門家派遣等における関係機関との連絡調整(指導内容、時間等)

(1) 各教科における防災教育

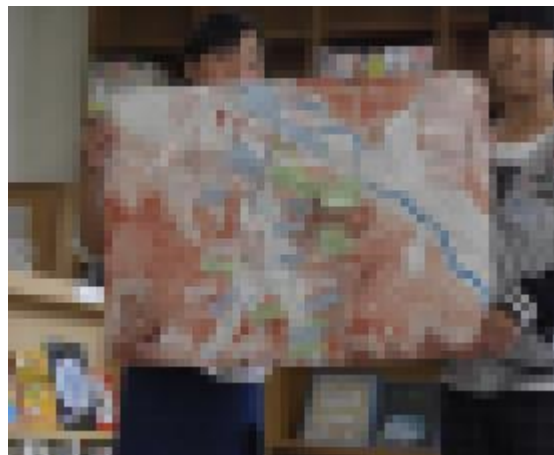
5年理科「台風と気象情報」

※鳥取地方気象台と連携して実施



(2) 各教科における防災教育

防災マップ作り・・・参観日に保護者へ発表し、その後、地域の公民館等に展示



※1分あればできる

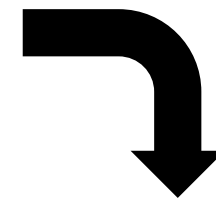
緊急地震速報対応行動訓練



窓近くの児童↓カーテン閉め
ドア近くの児童↓ドア開け
その後↓しゃがむ、頭を守る
↓机の脚を持つ

(3) 休憩時間における避難訓練

※ 先生が側にいなくても、上級生が下級生の手を引いて避難



避難訓練後の全校防災学習と非常食体験



避難の約束の確かめ



アルファ米を分けて食べる



(4)「土曜授業」における地域と連携しての防災教室

※早朝に震度6の地震が発生したと想定

1 家から公民館などの避難場所に避難し、そこから集団登校

2 「起震車」で揺れを体験



4 保護者への引き渡し訓練



3 低・中・高学年に分かれて防災学習





鳥取型防災教育の手引き

<小学校>

鳥取型防災教育の手引き

<小学校高学年 >



体育保健課HP

<http://www.pref.tottori.lg.jp/239259.htm>

5 成果と課題

【成果】

- 学校防災アドバイザーの専門的で分かりやすい講話や指導助言により、児童生徒のみならず**教職員、保護者等の防災に対する意識がより高まった。**
- 土曜日授業を活用した「防災教室」等では、親子で一緒に学ぶことができたことにより家に帰ってから**家族で防災について話す機会ができた。**
- 学校防災アドバイザーが引き渡し訓練等に関わることにより、**家庭や地域と連携する上での課題を見つけることができた。**

5 成果と課題

【課題】

- 防災アドバイザーによる学校への支援や指導助言を生かし、次年度以降はできるだけ担任等だけで授業が展開できるようにすること。
- 大規模災害発生時には学校が避難所となるので、児童、生徒の避難訓練だけでなく、災害発生時における学校の災害対策本部の立上げ、及び学校施設・設備等の被害状況確認等、初動体制訓練等を実施すること。



鳥取県 鳥取市 佐治町

人口 (平成28年)

鳥取県 572,265人

鳥取市 196,038人

佐治町 2,027人

世帯数

鳥取県 およそ 21万世帯

鳥取市 およそ 8万世帯

佐治町 およそ 790世帯

美しい海と山に囲まれ

自然豊かで 四季の変化を

五感で感じることもできる町

鳥取市立佐治小学校

心温まる5しの里
～清らかで心豊かなさじっ子～



防災教育はじまる！

土砂災害警戒区域に立地



土砂災害を想定した避難訓練を実施

- ▶ 「学校の防災教育への専門家派遣事業」の活用
鳥取県治山砂防課、鳥取地方気象台
- ▶ 佐治町総合支所との連携

1次避難場所 体育館は安全か？

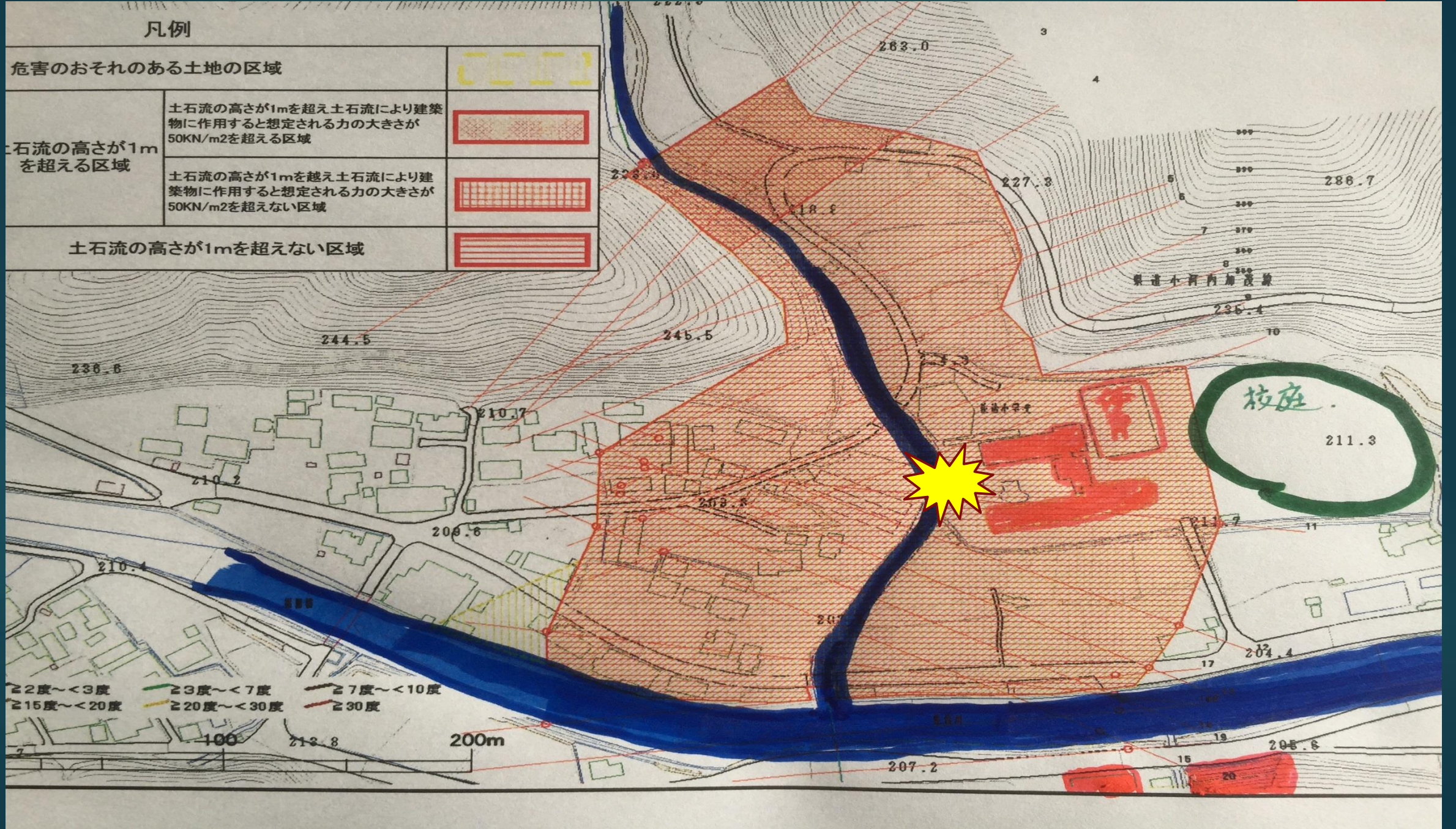


土石流とは... 土石流が起こる前兆



凡例

危害のおそれのある土地の区域		
土石流の高さが1mを超える区域	土石流の高さが1mを超え土石流により建築物に作用すると想定される力の大きさが50KN/m2を超える区域	
	土石流の高さが1mを超え土石流により建築物に作用すると想定される力の大きさが50KN/m2を超えない区域	
土石流の高さが1mを超えない区域		



木合谷川（土石流危険溪流）



○台風16号接近 9/20(火)

早期下校か、待機か → 児童給食後下校

警報に関すること — 鳥取地方気象台

土砂災害警戒情報 — 鳥取県治山砂防課

地域に係わること — 佐治町総合支所地域振興課

専門機関との連携・情報収集

○鳥取県中部地震発生 10/21(金)

- ・ 14：10ごろ地震発生
- ・ 校庭に避難し、待機
- ・ 校舎にもどり身支度
- ・ 再度、校庭に避難
- ・ 保護者引き渡し
- ・ 完了18：00ごろ

迅速な情報提供
職員や子どもとの協働
地域との連携

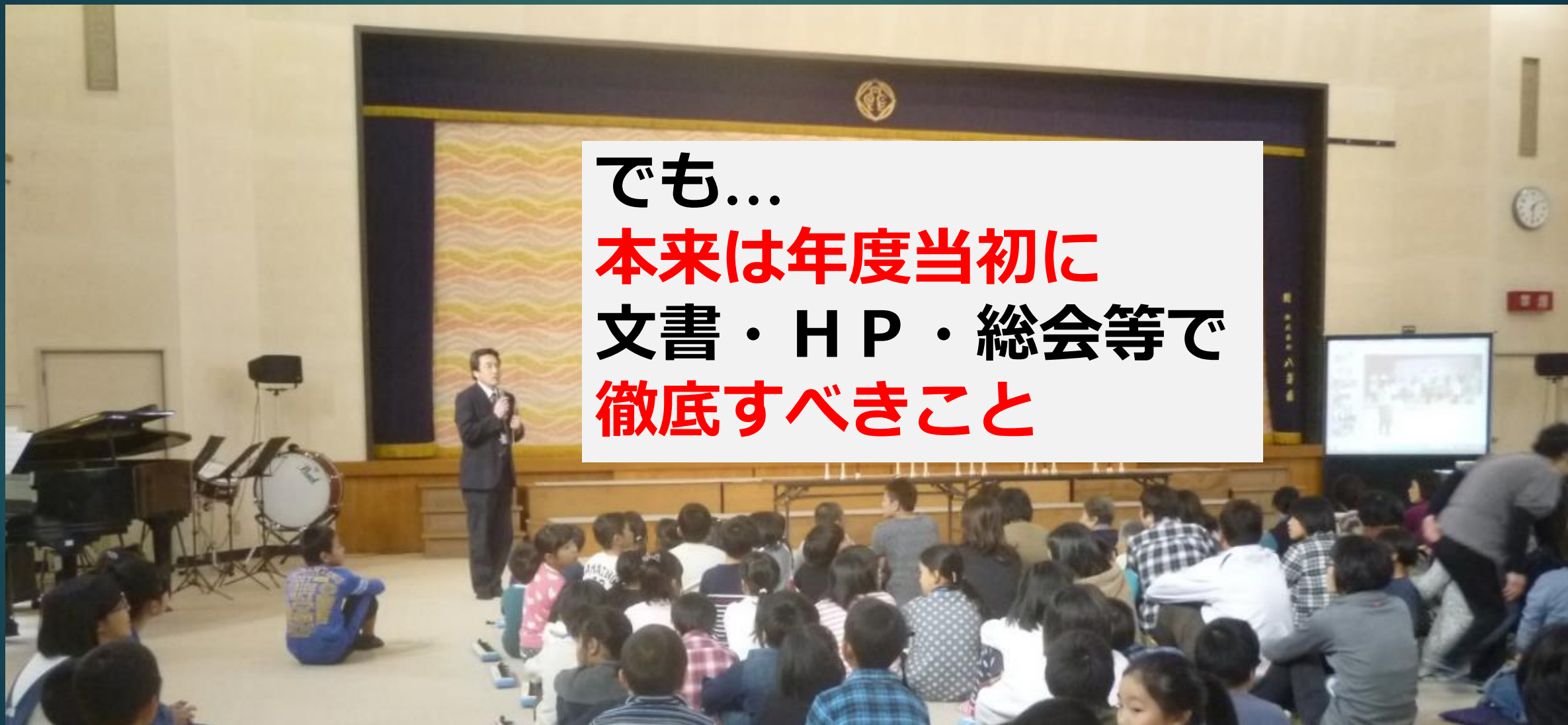
ふりかえりをする事、
それは次へ生かすこと

○保護者の思い

- ・子どもは無事か。
- ・子どもはどこに避難するのか、そこは安全なのか。
- ・連絡手段の複数化
- ・迎えに行くまでずっと待たせてもらえるのか。
- ・自宅近隣の保護者への引き渡しは可能か。
- ・引き渡し誘導は、その都度変化するか。

災害時対応確認・説明会（11月）

でも...
本来は年度当初に
文書・HP・総会等で
徹底すべきこと



和歌山県那智勝浦町教育委員会・下里小視察 11/21(月)

防災教育（4・5年）ワークショップ型学習

日本福祉大学 野尻紀恵 准教授・学生ボランティア



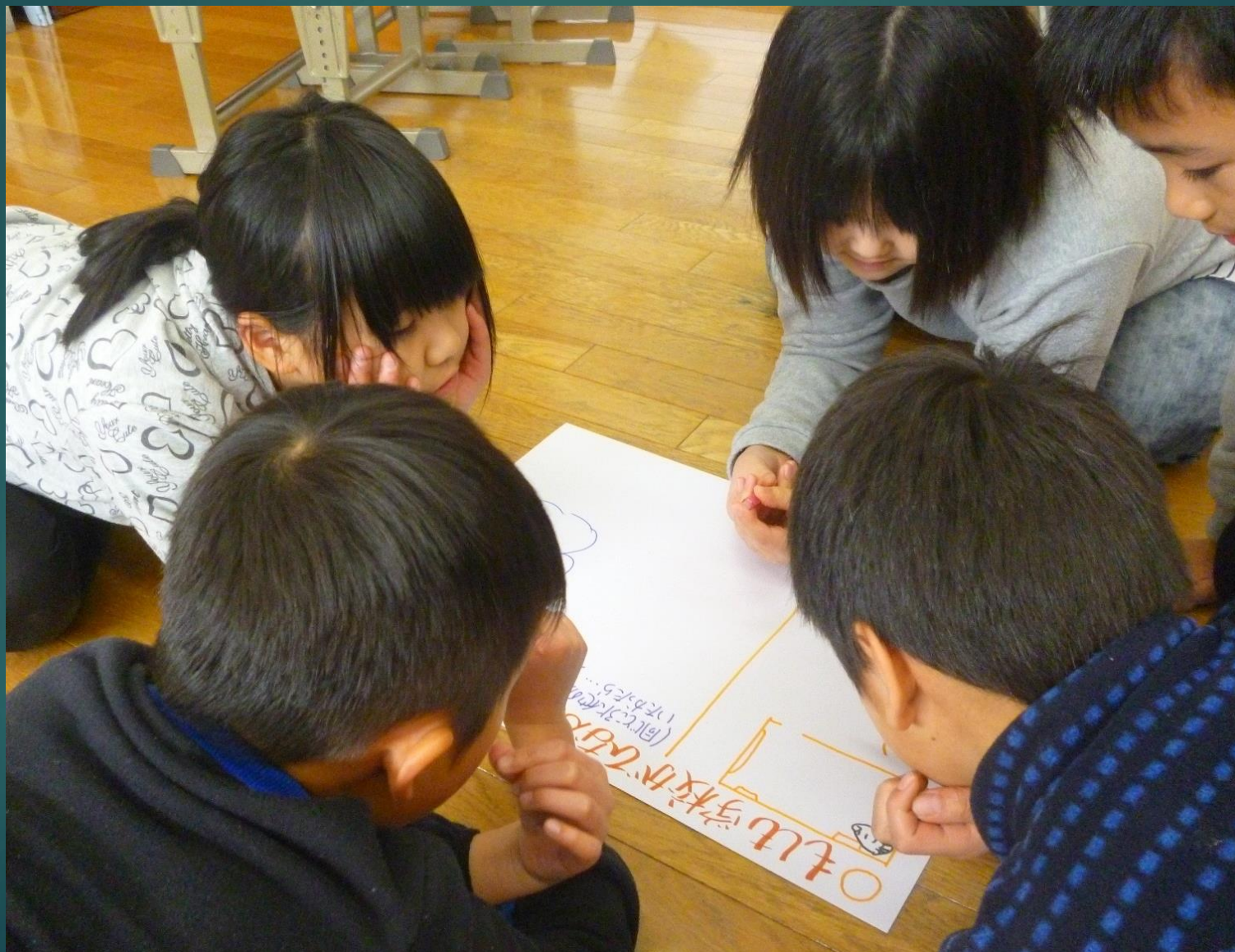
山津波を受けた那智勝浦町の小学校



未だ復興整備中の那智川周辺

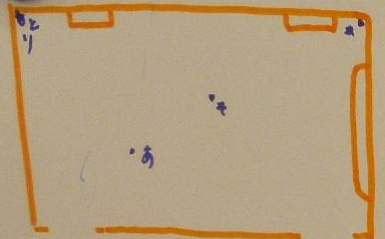


○防災学習（佐治小） 12/20(火)



もしも、学校が避難所になったら...

もしも学校がみんなの所になったら



(同じとこに他のもいたから...)

とこで...
高れい者 ペット
家族 子ども 大人
にんぶいさん
赤ちゃん
けが人
ふじゆうな方
やまいにかかっている方

みんなの所で空いている所
人数が少なからう一緒にみんなが
あ、り、ゆ

ゆずる リ

高れい者をゆずる
牛物が少ない所
保けん室からベッドを持ってくる(大事な物)
温かい場所をゆずる、教える。
家族の中に子どもがいる人は本だな近く。
遊べる場所 ↑

(わけ)
・大きなじしんの時物
・がたおれすい。そ
ちよとてと
・高い戸所が安全だからと、り
・木などが入ってくるからあ
・安全だから ゆ

どの場所がいい？

同じ場所を
希望する人がいたら
どうする？

学習を終えて...

自分にできることって
何だろう？



【児童の感想】

- 学校が避難所になった時の行動が少しわかりました。
- 今日出し合った意見のように、本当にできたらいいと思いました。
- 私も人のためにがんばりたいし、人の役に立ちたくなりました。
- 僕たちが自分にできる行動をすれば、人の役に立てたり人が亡くなったりしなくてすむと思いました。
- 人のために何ができるかを考えることで、自分にも人のために行動できることがわかりました。少しうれしかったです。

<防災に本気で取り組む地域が教えてくれたこと>

「自分の命は自分で守る」

「人のためにできることを考える」

できることを できる範囲で 自分らしく

防災教育の柱

自分の住む地域や
災害を知る

避難所となつた場合
を想定する

地域に防災教育の
大切さを啓発する

ふりかえりと改善で意識改革を怠らない

体制整備

**心を培って
いくこと**

両輪のバランスが重要

不完全さの自覚

→ プラス1歩の即実行の積み重ね

成果と課題

<成果>

- ・ 地域の実態を具体的に知ったこと
- ・ 災害を想定し始めたこと
- ・ 想定したことに対する準備を始め出したこと
- ・ 防災教育を通して培うことは何かを知れたこと
- ・ 地域との連携が少しずつ強まっていること

<課題>

- ・ 地域の一員としてつながり協働できる子どもたちに
- ・ 思いや意識のレベルから即行動するレベルへ